

## 遠い南極に思いをはせて 清水港で砕氷艦「しらせ」公開



南極の氷

参加者は乗員の話に聞き入り、「工学部の学生ですが、こういった機械を扱う仕事で知識を活かれますか」など、貴重な体験ができる仕事に興味を示していた。

一般公開では、艦後部にある飛行甲板やヘリ格納庫で、しらせが過去に持ち帰った南極の石や氷に触れたり、子どもの背よりも大きなペンギンの等身大模型と記念撮影ができるコーナーが人気を集めた。

また、岸壁に隣接する清水マリントーミナルでは「清水海洋展」が開催され、静岡地本が海上自衛隊の活動紹介パネルを展示したほか、しらせに乗って南極へ行った南極地域観測隊員のトークイベントなどが行われた。訪れた来場者は遠く離れた南極で働く人々や活動に思いをはせていた。

静岡地本は、今後も多くの人に自衛隊の幅広い活動を知ってもらえるよう広報活動を行っていく。

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・武田恭一 一等空佐）は9月16日（金）から18日（日）まで、清水港日の出埠頭（静岡市）で砕氷艦「しらせ」の特別・一般公開を行った。

同艦が清水港に入港するのは4年ぶり。小学生から大学・専門学校生等を対象とした特別公開や予約不要の一般公開を行い、3日間で9246人が見学した。

特別公開では、横須賀を出港したしらせが南極へ向かう様子や昭和基地周辺での活動を紹介する映像を見た後、多くのスイッチャーモニターが並ぶ操縦室や周囲を広く見渡せる艦橋、出航中に隊員同士で髪を切り合う理髪室などを見学した。



一般公開に並ぶ見学者

## それぞれの場所で新たな門出

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・武田恭一 一等空佐）は10月3日（月）、海上自衛隊横須賀教育隊（横須賀市）で行われた自衛官候補生課程入隊式に参列した。

当日は穏やかな晴天に恵まれ、新隊員83人は希望を胸に、緊張した面持ちで入隊式に臨んだ。来賓や家族が見守る中、横須賀地方総監・乾悦久海将に対する栄誉礼、海上自衛隊横須賀音楽隊の演奏による国歌斉唱の後、新隊員が一言に宣誓文を力強く読み上げ、海上自衛官として責務と自覚を誓った。

乾総監は「一人の力は小さなものであっても、同期と力をあわせることで一人では超えられないような厳しい訓練も必ず乗り越えられる。このことを心に留め、互いの個性を認め仲間を尊重し、同期との絆を育んでもらいたい」と訓示した。

式の最後には、海上自衛隊隊歌「海をゆく」を新隊員が斉唱し、海上自衛官として新たな門出を迎えた。

同時期に、陸・空自衛隊の教育隊においても入隊式が行われ、静岡県からは8人がそれぞれの場所で新たな第一歩を踏み出した。

静岡地本は、彼らが自衛官として成長する姿を温かく見守るとともに、地元にいる家族との架け橋として活動していく。



それぞれの場所で新たな門出